



つじむら たける
辻村 岳瑠 議員
(政経会)

高齢者介護人材について

問 福祉は全産業の基盤にあると考え、2025年までに必要な介護人材の必要数と、それに対する市の取り組みについて。

部長 全国の介護人材の配置率に本市のサービス受給者に乗じた約4000人と推計されている。

問 介護人材確保に対して、市の福祉人材マッチング事業を提案させていただくがどうか。

部長 市だけでのマッチングより、広域を考えていくメリットもある。富士宮市介護保険事業者連絡協議会は、(仮称)人材不足対策委員会を設置した。市としても、将来的な介護人材確保は重大な課題であると考えていることから、同委員会に担当職員が参加して、事業者とともに検討していく。

交通弱者支援について

問 公共交通では補い切れない、生活の支援とい

う幅広い意味での、新しい移動手段が求められていると考える。福祉的な視点でご答弁をお願いする。

部長 地域の助け合いで、地域の課題に取り組んでいる。当市においても袖野、稲子地区での活動を承知している。

スポーツで輝く富士宮のまちづくりについて

問 第5次総合計画に挙げている、国際大会、全国大会の誘致について。当市人気スポーツでもある野球、そしてサッカーの誘致。その開催場所、可能性について。

部長 今後誘致しようと動いているのは、ソフトボール大会。過去にも国際大会を開催。またそういうものが持ってこれないかというところでやっているが、なかなか難しいところがある。それでも、もっと小さい規模の国際大会を誘致できないか検討している。



ふかさわ りゅうすけ
深澤 竜介 議員
(令和)

救急医療の現状の問題点(救急車はすぐ来るが、搬送先の病院が決まるまでの時間がかかる)について

問 救急車が現場到着から、出発まで30分以上かかっている件数、病院への問い合わせが6回以上の件数の推移はどうなっているか。

部長 30分以上は、H28年478件、H29年601件、H30年641件。6回以上は、H28年73件、H29年80件、H30年83件である。

問 時間短縮のために、富士医療圏において、救命救急医療体制を充実するため、富士市との協議を行うべきと考えるがいかがか。

部長 救急医療について、7月に開催される富士地域医療構想調整会議で議論される予定である。また、富士市立中央病院の建替えに向けて富士市と情報交換等に努めていきたい。

問 富士市とはどういう話になるのか。

病院長 救急に関しては、富士市と、例えば輪番制とかを検討していきたい。

副市長 病院建て替えについては、事務サイドでお互いの現状について情報交換することからはじめていきたい。



▲市民の命を守る救急医療の確立は最重要課題である。

地域循環共生圏について

問 富士宮市は、環境省の地域循環共生圏(35件)に採択された。今後の動きをお聞きする。

部長 市民・企業・金融機関・行政による団体が組織され、水を守り、再生可能エネルギーを創出する事業を検討する。その後10団体ほど、具体的な事業化に向けた支援がなされる。

要望 富士宮市にとって、環境と経済がリンクする事業は、とても意味あることだ。積極的に進めていただきたい。